小生の従軍の思い出と戦後の混乱期

西澤太郎（浜町・71歳）

小生は日米開戦の初期シンガポール陥落の祝賀のわき立ってゐる昭和十七年五月一日東京赤坂東部第六十二部隊、軍部赤坂を歓迎の声に送られて品川駅に到着し、やがて軍列車にて宇品を経て満洲を通過して厳寒の北支の楓部隊を三ケ月位軍務しました。其の后北支から常夏の広東に転属して約二年半位だと思ひますが、其の間に戦傷し広東陸軍病院に入院しました。数ケ月の後に香港陸軍病院へ轉院し終戦後の二十年の十二月に同部隊の上官、船橋出身の品川安太郎殿と一緒に懐かしい内地の鹿児島に上陸しました。

二十年十二月三十一日大晦日の朝に待望の千葉県船橋駅に到着し品川上官の家は無事でしたが、小生の家は荒川区南千住ですが、戦災で焼けまして品川さんの家で二日間御世話様になりました事は、今も懐しい思い出です。

其の後品川さんがアイスクリーム販売所の仕事をしてゐるので小生が住込みで働く事になりました。永年の間に船橋市内の映画館をアイスをおさめたり旧船橋ヘルスセンター、又は船橋競馬場など各方面広く忙しい仕事でした。当時の品川販売所の社長さんが突然の御病気にて四十年ごろ他界しました。謹んでご冥福を御祈り申し上げます。

最後に小生が永年勤務しました当会社に定年の為、五十九年退職しました。現在は地元の浜寿会に（敬老会）入会して居ります。朝早く一年中歩いて運動をして居ります。御陰様で体の方はいたって丈夫です。

戦後四十五年近くなり年も取るのも早く七十才になりました。現在、年金生活にて夫婦2人で余生を頑張って居ります。

色々とつらひ、楽しい思い出が沢山あります。ではこれで失礼させて戴きます。

船橋市民の皆様の御健康と幸福をお祈り申し上げます。



昭和17年9月頃
北支派遣軍楓第4255部隊営門前で
（右側　西澤）